

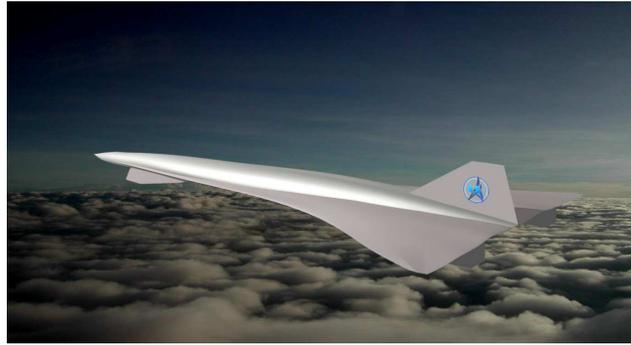
## NASA（アメリカ航空宇宙局）主催 2009 年度学生航空機設計コンテストにて国際部門第 1 位を受賞

NASA の航空機研究部門（The Fundamental Aeronautics Program）が主催した大学生／大学院生を対象とした航空機設計コンテスト（Fundamental Aeronautics Student Competition College/University Division）において、李家研究室修士 1 年生の湯原達規君と鈴木（真）研究室修士 1 年生の辻本翼君のチームは、国際部門の第 1 位を受賞しました（設計指導：李家賢一教授）。2009 年 9 月 29 日から 10 月 1 日にかけて米国アトランタで開催された NASA 航空機研究部門年次大会（NASA Fundamental Aeronautics Program 2009 Annual Meeting）期間中に表彰式と設計結果の発表が行われました。（写真左は表彰式の模様、右が湯原君、中央が辻本君。写真右はトロフィー）



本コンテストは今年度で 7 回目になります。毎回異なる航空機を設計する要求が与えられ、大学生あるいは大学院生のチームがその機体設計要求に従って設計し、応募するものです。今年度は超音速旅客機（乗客数 35 人から 70 人、飛行マッハ数  $M=1.6\sim 1.8$ 、航続距離 7,200km）が設計対象となりました。全米のみならず、世界各国から二十数件の応募があり、それを NASA の研究者（約 50 名）が審査を担当し、全米部門と国際部門の 2 部門に分かれて表彰されました。全米部門では、ジョージア工科大学とバージニア大学の 2 チームが第 1 位を分け合いました。また国際部門では第 2 位にインドの大学が受賞しています。

湯原、辻本両君のチームは、二酸化炭素排出が零である液体水素を燃料に用いた水素燃料超音速旅客機を設計し、その地球温暖化を防ぐサステナビリティの高い機体を目指した斬新なアイデアならびに緻密な設計経過が高く評価され、受賞したものです。図は両君が設計した水素燃料超音速旅客機の概観図です。



2009 年度の受賞者、設計内容の詳細は、  
[http://www.aeronautics.nasa.gov/competition\\_winners\\_college.htm](http://www.aeronautics.nasa.gov/competition_winners_college.htm)  
をご参照ください。

(NASA の本コンテスト主催部門について)

本設計コンテストを担当した米国航空宇宙局の基盤航空工学プログラム (NASA the Fundamental Aeronautics Program) は、NASA 内での航空機関係の研究を担当している部門であり、音速より遅い速度の飛行機 (旅客機)、ヘリコプター、超音速機、極超音速機に関する 4 つのプロジェクトを実行しています。このプログラムでは、環境問題 (騒音と排出ガスの低減、二酸化炭素の排出量の低減) に特に注目し、将来実現すべき航空機に関する提案と研究が行われています。